

手賀沼の魚の生態研究

タウナギ・ライギョを育てる

柏第一小学校 5年2組
大森 千聡

発表内容

1. 研究の目的
2. 挑戦した事 (タウナギ)
3. 挑戦した事 (ライギョ)
4. 観察した事
5. 結果と分かった事 (タウナギ)
6. 結果と分かった事 (ライギョ)
7. まとめ



1.研究の目的

私は小さなころから兄と手賀沼で生物調査をしてきました。今まで色々な水辺の生物を捕獲した時に、たくさんの稚魚も捕獲しました。

“こんなに小さい稚魚が、手賀沼でどうやって大きくなっていくのだろうか？”とあって研究を始めました。

2.挑戦した事（タウナギ）

- ▶ 稚魚の捕獲の方法
用水路の底をアミですくって捕獲
- ▶ 捕獲した稚魚
5cmぐらいの稚魚：2匹
10cmぐらいの稚魚：1匹
- ▶ 飼育した環境
水槽で飼育
- ▶ 与えたエサ
稚魚を捕獲した場所の近くで次の魚を捕獲して与えた
メダカ、カダヤシ、モツゴ、ヌマエビ、スジエビ

【観察事項】

- A)選んだエサを食べるか？
- B)どんな食べ方をするのか？
- C)どの位まで育てられるのか？

2.挑戦した事 (タウナギ)



稚魚



成魚
【参考】



捕獲の様子

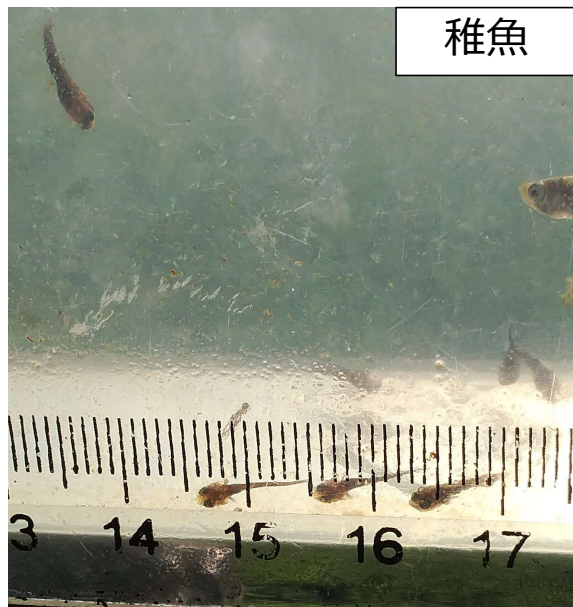
3.挑戦した事（ライギョ）

- ▶ 稚魚の捕獲の方法
水面近くで泳いでいたのをアミですくって捕獲
- ▶ 捕獲した稚魚
1.5cmぐらいの稚魚：約30匹
- ▶ 飼育した環境
水槽で飼育
- ▶ 与えたエサ
稚魚を捕獲した場所の近くの田んぼで次の虫を捕獲して与えた
ミジンコ、コムズムシ、ガムシ

【観察事項】

- A)選んだエサを食べるか？
- B)どんな食べ方をするのか？
- C)どの位まで育てられるのか？

3.挑戦した事 (ライギョ)



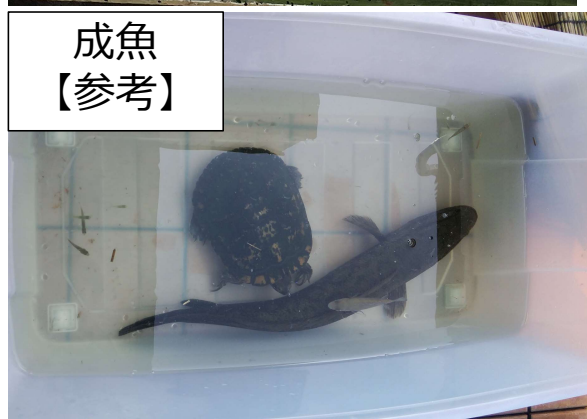
稚魚



稚魚の群れ



捕獲の様子



成魚
【参考】



ライギョのエサ
(顕微鏡で観察する大きさ)

5.結果と分かった事（タウナギ）

- A) 選んだエサを食べるか？
捕獲したエサは食べた
- B) どんな食べ方をするのか？
10cmの稚魚がエサを加えて食べて、残ったエサを5cmの小さい稚魚が食べているのを観察出来た。
5cmの稚魚も大きくなってくるとメダカ、カダヤシを捕まえて食べているのが観察出来た。
- C) どの位まで育てられるのか？
4月から11月の7か月を飼育
 - ・ 5cmの稚魚が10cm位になった
 - ・ 10cmの稚魚は20cm位になった

6.結果と分かった事（ライギョ）

- A) 選んだエサを食べるか？
捕獲したエサは食べた。
- B) どんな食べ方をするのか？
与えたエサを一口で丸呑みして食べているのを観察した。
- C) どの位まで育てられるのか？
8月の中旬から飼育を始めたが1週間ごとに1匹ずつ死んでいった。
それを食い止めるため環境を変えたり、エサを変えたりしたが、止められなく全滅した。

7.まとめ

- ▶ タウナギは捕まえた環境に近い場所のエサを与えることで飼育できることがわかった。
- ▶ ライギョは捕まえた環境に近い場所のエサを与えて食べているのに飼育できなかった。
- ▶ 後で調べて分かったが、ライギョは親が稚魚に無精卵を与えて育てている事がわかった。

今回、飼育をするのにエサを与えたり、水を変えたりと大変だったが、そのおかげでライギョを飼育することが出来た。

手賀沼で生きている生物たちは自分でエサを探し、大きくなっていることから手賀沼は豊かな自然環境があると思った。

手賀沼がもっときれいになってもっと多くの生物が住めるようになってほしいと思った。